

検察事務官 (採用2年目・男性)



【検察庁を志望した動機】

刑事事件に関わる仕事をしたいと思い、検察庁を志望しました。

私自身、大学は経済学部で、法律の知識には不安がありました。入庁して1年目には研修があるので、法律の知識に不安がある人でも大丈夫です。日々の業務や研修などで、少しずつ学びながら仕事を進めることができますので、法律を学んだことがない人でも不安なく業務に取り組むことができます。

【担当している業務】

私は、現在、捜査・公判部門で立会事務を担当しています。

主に被疑者の取調べに立ち会って、捜査に必要な関係書類を作成したり、被疑者や被害者などの事件関係者と連絡をとって、取調べのスケジュールを調整したりしています。また、検察官が起訴した事件で公判に必要な書類を整理したりしています。

検察庁でも様々な業務がありますが、刑事事件に深く関わって、捜査や公判を間近で体験できるのは立会事務官だと思います。

立会事務官は、検察官とともに、警察などの捜査機関や事件関係者から直接話を聞いたりするなど事件捜査に関わり、普通の人には経験できないような業務に携わることができます。

【検察庁で働いて感じていること】

検察庁は、法律を扱う仕事なので、常に法令に従って業務を進める必要があり、難しいと感じる場面がありますが、分からないときには上司や先輩方が優しく丁寧に教えてくれるので働きやすい環境だと感じています。

また、休暇についても、非常に取りやすく、夏季にはまとまった休暇をとって、日々の業務の疲れをリフレッシュすることもできます。

【学生の皆さまへ】

検察事務官は、検察官とともに、捜査や公判などを通して刑事事件を間近で体感することができます。

毎日、色々な事件に触れることができるので、法律を扱う仕事がしたい、特に刑事事件に関わりたい方は、検察庁の業務にやりがいを感じると思います。

興味のある方は、業務説明会等に参加してください。



検察事務官 (採用1年目・女性)



【検察庁を志望した動機】

私は、公務員試験の勉強を行う中で検察事務官という職業を知り、捜査・公判といったほかの行政機関では経験できないような業務内容に魅力を感じ、検察庁を志望しました。

実際に働いてみて、特殊な業務が多くとてもかっこよく、やりがいのある職業だと思っています。まだ1年目でわからないことや未経験の仕事がたくさんありますが、毎日が刺激的で充実していて、この先どのような業務に携わっていけるか楽しみでいっぱいです。

【担当している業務】

私は現在、捜査・公判部門で公判事務を担当しており、主に公判情報の登録や裁判結果の確認作業を行っています。

時には捜査に関する資料作成や現地調査に携わることもあります。

捜査と公判は検察庁の業務の要であり、社会正義に直接関わるものなので、責任感を持って職務に当たっています。

【検察庁で働いて感じていること】

検察庁というと堅いイメージを持つ人もいるかも知れませんが、実際にはそんなことはありません。検察庁はワークライフバランスをはじめ、働き方に配慮した様々な取り組みを行っており、また、先輩や上司はいつでも若手事務官を気にかけてくれるので、とてもあたたかく働きやすい職場だと、身をもって感じています。

また、勤務地についても選択肢が広く、自分の希望する土地で働けるところも個人的には良い点だと思います。希望をすれば宮古・石垣などの離島、県外では主に九州、まれに関東など全国の検察庁にも行ける可能性があり、活躍の場が広く用意されています。

【学生の皆さまへ】

職業選択のさなかにいる皆さんは、多くの就職先を調べ、たくさん悩まれていると思います。

私自身がその体験を通して感じた重視すべきポイントは、その職場の雰囲気です。私は実際に、説明会での職員の雰囲気が第一志望の決め手になったので、皆さんもたくさんの説明会に足を運び、雰囲気を感じていただければと思います。

たくさん見た中で、そこから私と同じように検察庁を志望してくださる方がいれば、とても嬉しいです。



検察事務官 (採用1年目・男性)



【検察庁を志望した動機】

検察庁を志望した動機は、刑事事件に興味があったということに加え、法学部出身ということもあり、せっかくなら学んだことを生かせる職業に就きたいと思ったからです。

しかしながら、最大の理由は、検察庁の業務の専門性の高さに魅力を感じたからです。

検察庁は、刑事事件の真実発見と適正手続の保障という、国家機関としての方向性がはっきりしているので、常に目的意識をもって仕事に取り組むことができると考え、検察庁を志望しました。

【担当している業務】

私は、検務部門の事件係で勤務しています。事件係は、警察から事件の送致を受けたり、最終的に検察官が捜査を終え、起訴や不起訴等の方針が決まった事件に関する事務を行います。

また、被疑者・被告人の収容や、押送に関する業務も行います。

【検察庁で働いて感じていること】

検察庁では、職員全員が目的意識を持って日々業務に励んでおり、自分自身も成長できる環境だと思います。

検察庁と聞くと、堅苦しい印象を持たれる方もいらっしゃると思いますが、気さくな方も多く、日々充実した社会人生活を送っています。

【学生の皆さまへ】

就職活動を進めるにあたって一番大切なことは、入社してからのミスマッチを避けることです。

このミスマッチを回避するために、様々な企業や役所の説明会・インターンに赴き、本当に自分が目的意識を持って続けていける会社なのかを考えることが大切だと思います。

そのなかで、検察庁に興味を持ち、検察庁で働きたいと思った方は、是非入庁していただきたいと思っています。

検察事務官（中途採用1年目・女性）



【検察庁を志望した動機】

小学生の頃から英語を話せる人になりたいと夢があり、大学でも英文学を専攻しておりましたが、人生紆余曲折があり、福祉分野での仕事を長らく続けておりました。

しかし小さい頃の夢は消えることはなく、偶然というか必然というか、那覇地方検察庁で英語の翻訳・通訳経験者を選考採用する求人募集を目にしました。

福祉とは全くの畑違いの職場ではありますが、対人援助職で培った『聴く力』と関係機関との『調整力』は活用できるのではないかと考え、「これまでの経験を生かし、夢を実現させるチャンスかもしれない！」と応募しました。

【担当している業務】

皆様もご存じのとおり、沖縄県には多数の在日米軍基地があり、合衆国軍隊構成員等による事件が発生しております。

駐留米軍法務部や憲兵隊、警察署との連絡調整を行ったり、報告や統計に関する事務が主な業務です。

また一般外国人事件に関する報告や統計、通訳人に関する事務も担当しています。

【検察庁で働いて感じていること】

私の質問にも、快く応じてくださる先輩方や上司の存在に日々感謝しています。

お互いを気遣い、サポートする土壌が確立していて、業務を遂行する上で安心感もあります。

【学生の皆さまへ】

地方自治体、公的医療機関、民間病院など様々な職場で働く機会を得てきましたが、検察庁では働きやすさを感じています。

研修制度の充実、組織全体で人材育成に取り組む姿勢、自由闊達なコミュニケーションのあり方などは働きやすさだけでなく、個人の成長にもとても有効な環境だと思えます。

より良くありたいと思っている皆さん！是非説明会などに参加して、検察庁の雰囲気を感じてください。きっとこれまでの印象が大きく変わると思えます。

